

水害リスクマップについて

1. 水害リスクマップについて

1. ハード・ソフト一体の水災害対策「流域治水」の本格的実践[4/15]

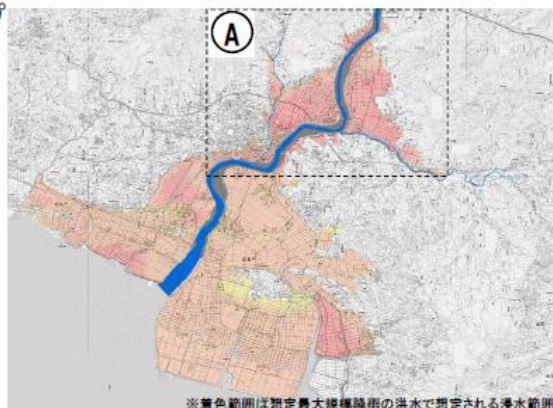
水害リスク情報の充実(水害リスクマップ(浸水頻度図)の整備)

※令和4年度 水管理・国土保全局関係
予算概算要求概要（令和4年1月）より

- 従来、想定最大規模降雨の洪水で想定される浸水深を表示した水害ハザードマップを提供し、洪水時の円滑かつ迅速な避難確保等を促進。
- 今後は、これに加えて、浸水範囲と浸水頻度の関係をわかりやすく図示した「水害リスクマップ(浸水頻度図)」を新たに整備し、水害リスク情報の充実を図り、防災・減災のための土地利用等を促進。

水害リスク情報の充実

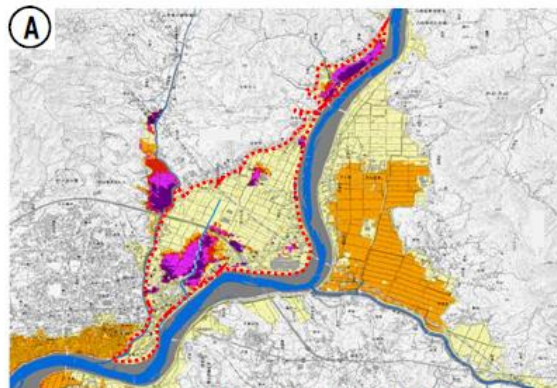
○水害ハザードマップ



○水害リスクマップ※1



※2 上記凡例の()内の数値は確率規模を示していますが、これは例示です。



※1 当資料の水害リスクマップは床上浸水相当(50cm以上)の浸水が発生する範囲を示しています。(暫定版)

水害リスクマップの活用イメージ

現在の水害リスクと今後実施する河川整備の効果を反映した将来の水害リスクを提示し、以下に取り組む

- 住居・企業の立地誘導・立地選択や水害保険への反映等に活用することで、水害リスクを踏まえた土地利用・住まい方の工夫等を促進
- 企業BCPへの反映を促進することで、洪水時の事業資産の損害を最小限にとどめることにより、事業の継続・早期復旧を図る

現在(外水氾濫のみ)

整備後(外水氾濫のみ)



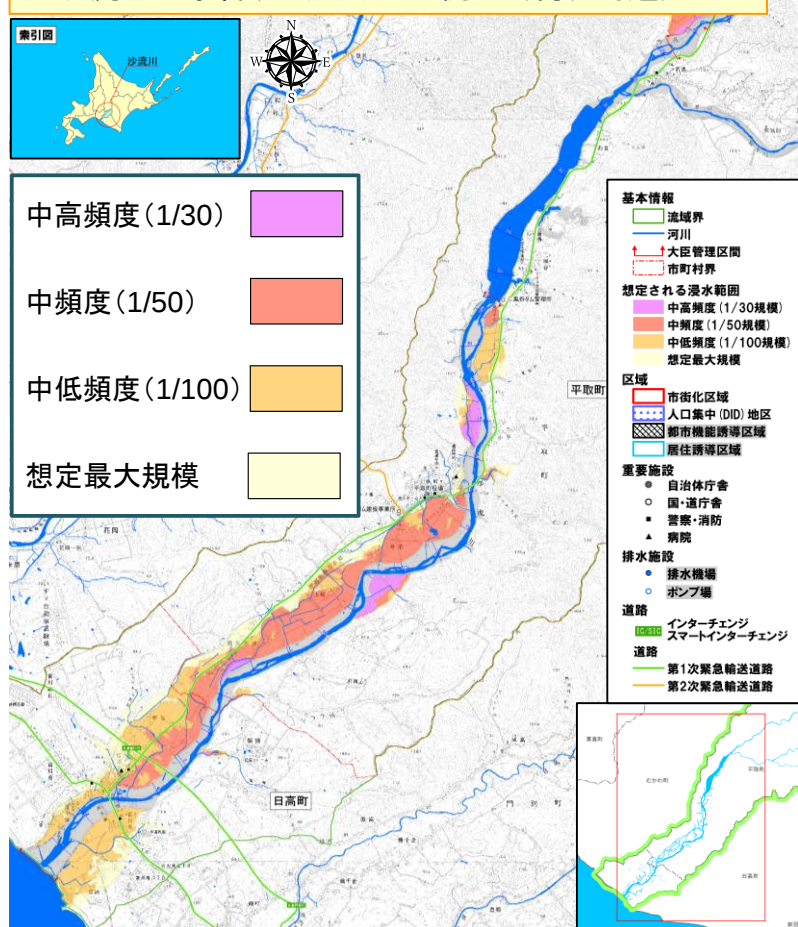
【令和4年度の国土交通省としての取組】

- ・全国109の一級水系において、外水氾濫を対象とした水害リスクマップの作成を完了させるとともに、先行して、特定都市河川や水災害リスクを踏まえた防災まちづくりに取り組む地区において、内水も考慮した水害リスクマップを作成

2. 水害リスクマップについて

- 水害リスク情報の更なるデータの充実とその利活用の推進を目的として、沙流川の水害リスクマップを作成した。
- 水害リスクマップは、現在公表されている想定最大規模降雨による水害リスク情報のみならず、中高頻度の降雨等（10年や30年に一度の降雨等）を想定した場合の水害リスク情報を重ね合わせており、水害リスクに応じた治水対策やまちづくり等に活用されることが期待されている。

◆ 沙流川の水害リスクマップの例（現況河道）



◆ 水害リスクマップの活用例

● まちづくり

→ 都市計画・立地適正化計画等（開発規制や居住誘導等）での活用、住まい方の工夫、防災まちづくり

● 治水対策

→ 流域対策も含めた事業効果の見える化

● 水害保険

→ 水害リスクに応じた保険料の設定

● 避難行動

→ 浸水頻度を踏まえた避難路等の設定

● 企業BCP（事業継続計画 (Business Continuity Plan)）

→ 浸水頻度、浸水深に応じた計画策定

3. 水害リスクマップの諸条件

■ 水害リスクマップは、河道の整備段階（短期～中長期など）毎に、洪水の発生頻度（低頻度～高頻度など）に応じて作成している。

◆ 河道の整備段階に応じた河道条件

整備段階	整備状況
現況	令和2年度末時点の河川の整備状況
短期整備	令和2年度末から5年後（令和7年度末時点）の整備状況
中長期河道	河川整備計画の完了時の整備状況

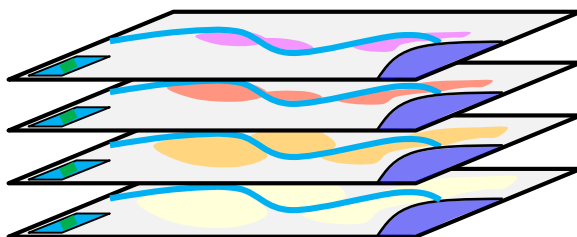
◆ 洪水の発生頻度に応じた外力条件

洪水発生頻度	降雨量
高頻度	1/10確率規模の降雨量 （沙流川は浸水範囲なし）
中高頻度	1/30確率規模の降雨量
中頻度	1/50確率規模の降雨量
中低頻度	1/100確率規模の降雨量
想定最大規模	1/1000確率規模の降雨量

浸水頻度

中高頻度（1/30）	
中頻度（1/50）	
中低頻度（1/100）	
想定最大規模	

各頻度毎の浸水リスク（イメージ）



① 確率規模別の浸水マップを作成

水害リスクマップ（イメージ）



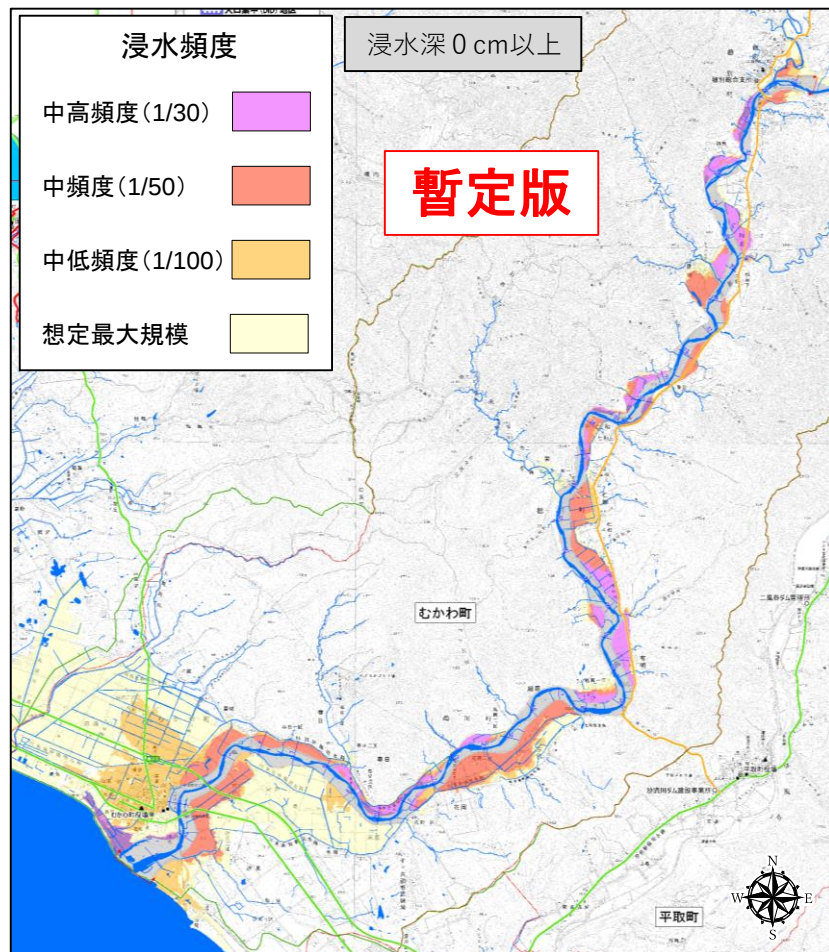
② 作成した確率規模別の浸水マップの情報を重ね合わせて1枚の図面に表現

※ 令和3年度末（R4. 3月）では短期整備状況までのリスクマップ作成

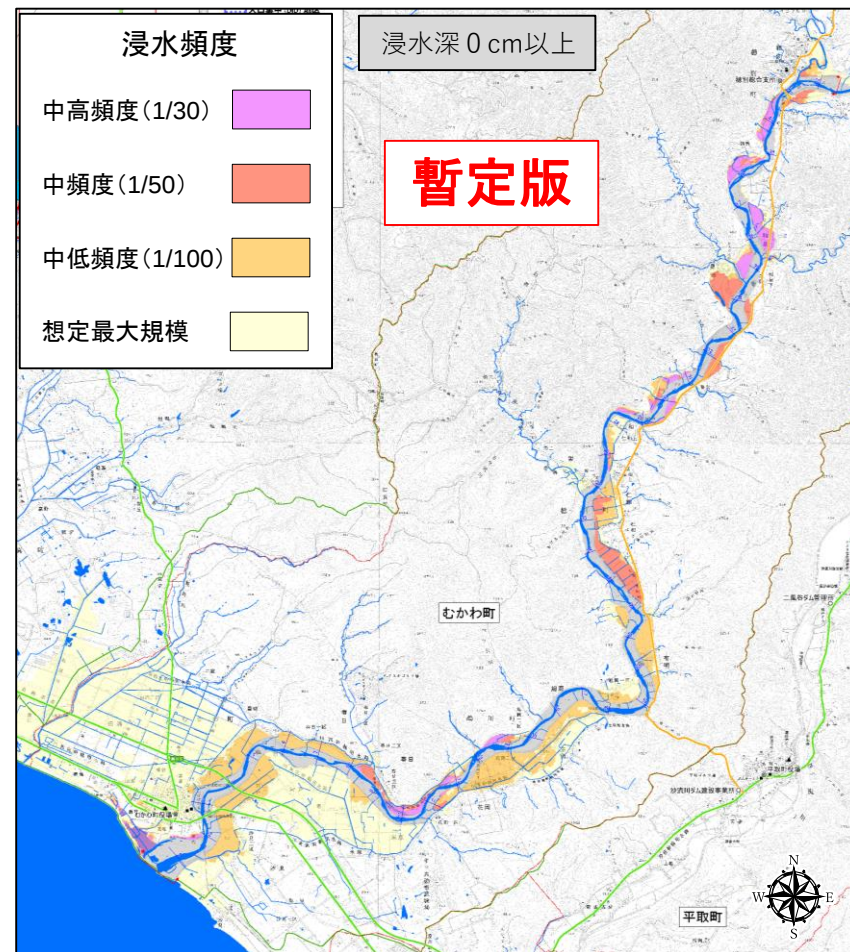
4. 水害リスクマップ(鵜川流域:穂別市街地～河口域)

■ 鵜川において、各頻度毎の浸水範囲を重ね合わせた水害リスクマップを作成。

現況整備状況（R2年度末を想定）



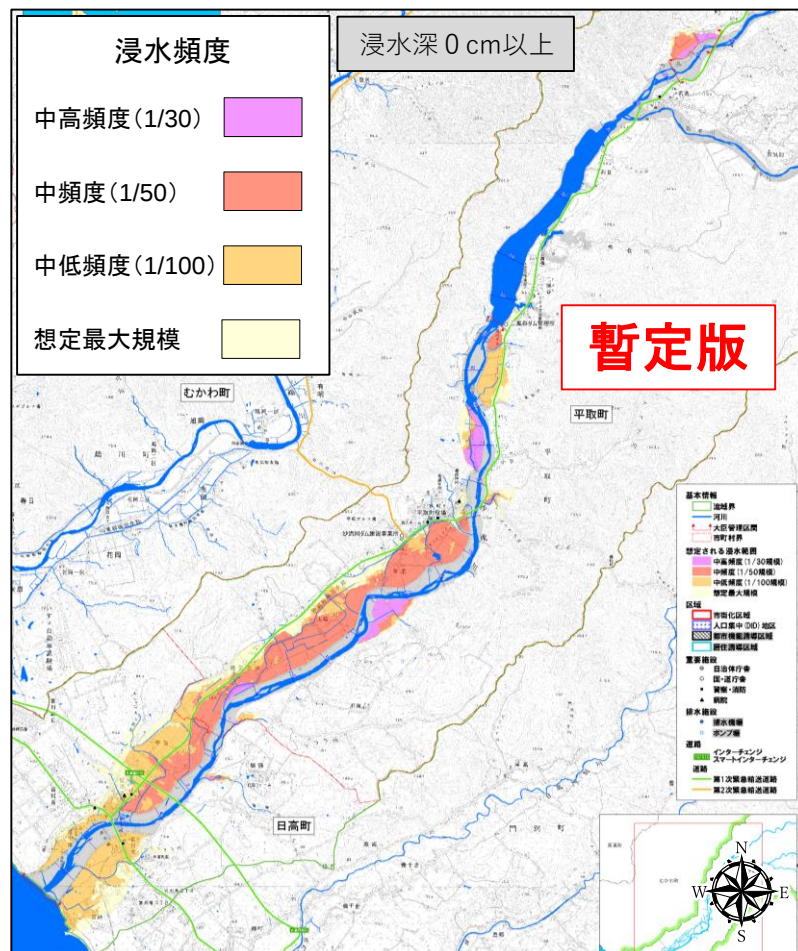
短期整備後（R7年度末を想定）



5. 水害リスクマップ(沙流川流域:二風谷ダム下流～河口域)

■ 沙流川において、各頻度毎の浸水範囲を重ね合わせた水害リスクマップを作成。

現況整備状況 (R2年度末を想定)



整備実施

短期整備後 (R7年度末を想定)

